

◆ 販売物情報 ◆

大会公式プログラム

1部/1,000円(税込み)

出場全大学の登録選手の紹介や、過去の大会の記録など、インカレを楽しむための情報が盛りだくさん!!

そして巻頭企画では、総理大臣杯覇者の明治大学プロ内定者5名上原克典選手(京都サンガF.C.内定)

岩武克弥選手(浦和レッズ内定)

小野雅史選手(大宮アルディージャ内定)

袴田裕太郎選手(横浜FC内定)

村田航一選手(水戸ホーリーホック内定)のインタビューを掲載。

各会場のプログラム販売所にてお買い求めいただけます。



【プログラム表紙】

★I PLAY FOR PHOTO BOOK★

1冊 500円

インカレ出場全大学の選手・スタッフが伝えたいたい「I PLAY FOR...」を写真と共に紹介します。冊数限定なのでお買い求めはお早め。

☆ユニフォーム型ストラップ☆

1個 500円

出場全大学のユニフォーム型ストラップ。第67回大会にちなんで、「67th All Japan Championship」の特別仕様。観戦の記念に是非。

【決勝 12/22】Jクラブ内定者サイン会開催

関東大学サッカーリーグ戦からJリーグクラブへの来季加入が内定した選手のサイン会を開催します!

また、同イベント会場におきまして、内定者の名前と背番号入りのユニフォーム型ストラップも販売。

どなたでもご参加いただけるイベントですので奮ってご参加ください!

未来のJリーガーたちの、貴重な大学時代のサインを逃すな!!

○日時: 12月22日(土) 決勝(13:00KICKOFF)の終了後

○会場: 浦和駒場スタジアム 場外広場

※決勝が延長戦に突入した場合はサイン会開始時間を繰り下げます。

※準決勝終了後にサイン会参加選手を発表します。直前に変更となる可能性もございますので、ご了承ください。

※内定者のユニフォーム型ストラップは当日のみの個数限定販売となります。

◆Twitter: @JUFA_soccer

全会場・全試合リアルタイム速報



◆Instagram: @Jufa Japan

大会期間中の感動の名シーンの振り返り



◆公式HP

www.jufa.jp

随時、情報をお知らせ



展望

平成30年度第67回全日本大学サッカー選手権大会

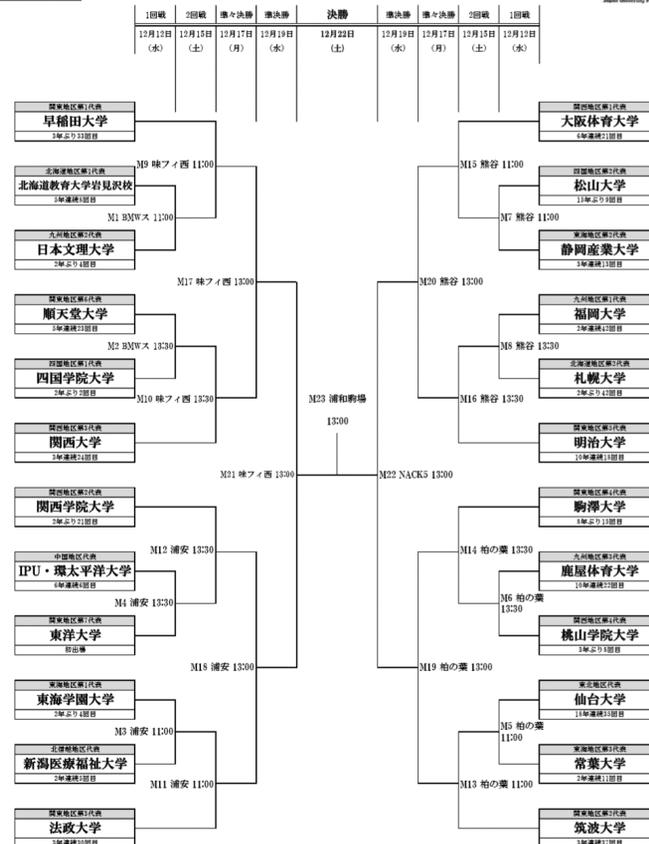
OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

NO.1

発行: 一般財団法人 全日本大学サッカー連盟
協力: 森田将義、内藤悠史



平成30年度 第67回全日本大学サッカー選手権大会



早稲田大学 北海道教育大学岩見沢校 順天堂大学 四国学院大学 関西大学 日本文理大学

味フイ西・
BMW ブロック
文 森田将義

味フイ西・BMW ブロックは、関東王者の早稲田大学が頭一つ抜けた存在だ。すでにJ1の名古屋でプロデビューを果たしたMF 相馬勇紀(4年)と関東リーグ得点王のFW 岡田優希(4年/町田内定)を擁する攻撃陣に注目が集まるが、守備もGK 小島亨介(4年/大分内定)とDF 富田康平(4年/京都内定)らタレントが多数揃う。外池大亮監督は、「一戦必勝」を目標に掲げるが、初戦を突破すればトーナメントを勝ち上がる可能性は十分にある。

2回戦で早大と当たるのは、北海道教育大学岩見沢校と日本文理大学の勝者。北教大は佐賀俊之輔(4年)とFW 下田友也(2年)の2トップを中心とする、北海道リーグ最多得点を記録した攻撃が武器だ。総理大臣杯の初戦では、3点をリードしながらも逆転負けを許しているため、今大会にかける想いは強い。対する文理大は2年ぶりのインカレ出場。GK 山本祥輝(3年)を中心とした粘り強い守備が持ち味で、九州リーグでは最小失点を記録した。西野晃平監督が「九

州の代表としてまずは初戦突破できるようにスタメン、サブ、応援が一つになって戦う」と話すように、まずは北教大攻撃に全力を注ぐ。

反対の山は、全日本大学選抜のMF 旗手怜央(3年/川崎F内定)、MF 名古新太郎(4年/鹿島内定)など攻撃陣にタレントが揃う順天堂大学に注目だ。守備もDF 村松航太(3年)ら実力者を擁し、上位に入る力はある。堀池巧監督は「どんな形であろうとも勝って2回戦に進みたい」と意気込む。順大と初戦で当たる四国学院大学は、初めてリーグを制覇した勢いで2度目のインカレに挑む。GK 大西裕之(4年)を中心に守備陣がどれだけ踏ん張れるかが勝敗の鍵だ。

2チームの勝者と対峙する関西大学は広島内定のDF 荒木隼人(4年)、全日本大学選抜のDF 黒川圭介(3年/G 大阪内定)など守備に実力者がズラリと並ぶ。持ち味を發揮出来れば、「今年は決勝まで勝ち上がり、優勝したい」(前田雅文監督)という目標も夢ではない。

関西学院大学 IPU・環太平洋大学 東洋大学 東海学園大学 新潟医療福祉大学 法政大学

浦安ブロック
文 森田将義

主役候補は、関西リーグ2位の関西学院大学と関東リーグ3位の法政大学だ。DF 高尾瑠(4年/G 大阪内定)とMF 中野克哉(4年/京都内定)の二枚看板が売りの関学大は、天皇杯でG 大阪を撃破し、3回戦に進んだことからわかるように実力は全国でも上位クラス。司令塔のMF 山本悠樹(3年)も充実したシーズンを送っており、3年ぶりの頂点を狙える力はある。古塚恵太郎監督は、「負けたら終わりのプレッシャーの中で初戦だが、今まで積み上げてきたものを信じ、団結して戦う」と意気込む。タレント面では、U-21代表のFW 上田綺世(2年)と全日本大学選抜のMF 紺野和也(3年)を擁する法大も負けていない。守備もDF 前谷崇博(4年)やGK 吉田舜(4年)ら4年生を中心にまとまっており、関東リーグでは最少失点を記録。優勝を目標に掲げる長山一也監督は「夏の総理大臣杯では初戦で負け、難しさを改めて痛感した。二の舞にならないよう最高の準備をして挑みたい」と口にする。

2チームへの挑戦権は、地方の雄が争う。創部11年目のIPU・環太平洋大学は昨年の大会で全国大会初勝利を達成。今夏の総理大臣杯でもFW 赤木直人(3年)の活躍により、常葉大学を下した。「今年はベスト8以上を合言葉に取り組んできた」とDF 平松遼太郎(4年)が話すように、今大会はチーム史上最高成績を狙う。初戦で彼らの前に立ちはだかる初出場の東洋大学も、山形内定のMF 坂元達裕(4年)を筆頭に、MF 高橋宏季(4年)やFW 松崎快(3年)など実力者が揃い、好ゲームが予想される。

DF 鹿山拓真(4年/長崎内定)やMF 渡邊柁斗、FW 榎本大輝(ともに4年、名古屋内定)など各ポジションにプロ内定選手が揃う東海リーグ王者の東海学園大学も上位に入る力があり、「感動を届けられるようにベストを尽くす」(安原成泰監督)。2年連続出場の新潟医療福祉大学は、「昨年は1回戦敗退だったので、上位に食い込めるよう頑張る」(佐熊裕和監督)と初戦突破が一先ずの目標だ。

大阪体育大学 松山大学 静岡産業大学 福岡大学 札幌大学 明治大学

熊谷ブロック
文 内藤悠史

熊谷ブロックでは、2回戦から東西の強豪が登場。総理大臣杯決勝で対戦した大阪体育大学と明治大学が君臨し、両雄が8強に近い存在といえるが1回戦出場組も実力校揃い、虎視眈々と初戦突破を狙う。

実に15年ぶりのインカレ出場となる松山大学は、四国リーグ10試合でわずか1敗と安定した戦いを披露。昨季、一昨季の総理大臣杯では初戦敗退に終わっており、全国の舞台で悲願の1勝を狙う。静岡産業大学は3年連続の出場。直近2回はいずれも2回戦で敗退しており、主将のDF 諏訪部徹(4年)は「その壁を乗り越えたい」と意気込む。まずは重要な初戦を制し、大体大への挑戦権を掴みたい。

1回戦のもう1試合では、ともに42回目の出場となる福岡大学と札幌大学の南北両雄が激突する。福大は昨季、インカレでベスト8敗退。「全国4強基準」を掲げて臨んだ今季は九州リーグを圧倒的な強さで制し、天皇杯福岡県予選決勝ではJ3北九州を破った。本大会でも1回戦突破を果たすなど、実

績は十分。総理大臣杯では2回戦敗退に終わっただけに、今大会への想いは強い。対する札幌大学は2年ぶりの出場。初戦から難敵との激突だが、粘り強く戦って勝機を見出したいところだ。

2回戦から登場の大体大は昨季のインカレで2回戦敗退。そして今夏の総理大臣杯では準優勝と悔しい結果が続いた。今大会、初戦突破なら明大へのリベンジの機会が訪れる可能性もある。並々ならぬ思いで臨むことだろう。MF 末吉聖(4年/山形内定)やMF 浅野雄也(4年/水戸内定)を中心とした攻撃陣が本領を發揮できるか。「良い守備からの攻撃」を徹底し、初戦をしっかりモノにした。

明大は総理大臣杯を制し、2冠を目指して今大会に臨む。リーグ戦では5位に終わったものの、DF 岩武克弥(4年/浦和内定)やMF 小野雅史(4年/大宮内定)らJクラブ内定者5名を擁する陣容は全国屈指だ。総理大臣杯では4-1と快勝したが、大会初戦は「難しい戦いになる」(岩武克弥)と警戒。しかし夏と同様に勢いに乗り、短期決戦を勝ち進んでいきたいところだ。

駒澤大学 鹿屋体育大学 桃山学院大学 仙台大学 常葉大学 筑波大学

柏の葉ブロック
文 内藤悠史

柏の葉ブロックでは、一昨季の王者・筑波大学と、実に8年ぶりの出場を果たした名門・駒澤大学といった関東勢が2回戦から登場。1回戦には、各地区を勝ち上がってきた個性的な面々がエントリ。初戦から激闘が期待できそう。

1回戦では、18年連続出場の仙台大学と2年連続出場となった常葉大学が激突。仙台大は昨季、延長戦の末に初戦敗退と悔しい結果に終わった。吉井秀邦監督が「まずは初戦突破を」と意気込むように、1回戦への思いは強い。対する常葉大は前回、2回戦で敗退。澤登正朗監督は「常にハードワークできるチーム」とストロングポイントに言及しつつ、「昨年の成績を上回る」ために「初戦に全てを出し切りたい」と抱負を語っていた。

もう1試合では、10年連続出場の鹿屋体育大学と3年ぶりに出場の桃山学院大学が対戦。総理大臣杯では関東王者の早稲田大学を破って8強入りを果たした鹿屋大は、MF 樋口雄太(4年/鳥栖内定)が攻守の軸とし

て君臨。リーグ終盤の4連勝でインカレ出場権を掴み取った勢いに乗って初戦を突破したい。対する桃山大は、リーグ18得点のFW 毎熊晟矢(3年)に注目。その得点感覚を全国の舞台で發揮できるか、楽しみにしたい。

そして2回戦から登場するのが筑波大だ。連覇を狙った前回大会では、準々決勝で東京国際大学に敗れた。リベンジに燃える今大会、主将DF 小笠原佳祐(4年/熊本内定)は「本当に苦しかった今季の成長を見せたい」と意気込む。リーグ前半戦は低迷しながらも、終盤には底力を見せて2位フィニッシュ。関東屈指のタレント集団がタイトル獲得に挑む。

駒大は8大会ぶりの出場。フィジカルと走力を武器としたサッカーで、リーグ戦でも粘り強い戦いを披露してきた。「相手はどこであっても、駒大のサッカーをやるだけ」(秋田浩一監督)と、空中戦やロングボールを主体としたタフな戦いを仕掛けることだろう。一発勝負のトーナメントでも大崩れはないはずだ。まずは重要な初戦、試合の入り方に注意して勝利を掴みたい。